

南三陸町情報化推進指針（素案）に関する意見公募に対する回答

- | | | |
|---|-------|---|
| 1 | 実施期間 | 平成26年2月3日～平成26年2月14日 |
| 2 | 公表方法 | 広報みなみさんりく2月号、町ホームページ、南三陸町役場及び歌津総合支所での閲覧 |
| 3 | 提出方法 | 郵便、ファクシミリ、電子メールまたは持参 |
| 4 | 意見等件数 | 5件 |
| 5 | 意見概要 | 次のとおり |

番号	提出いただいた意見等の概要	町の考え方
1	<p>・情報化の基本方針について</p> <p>情報化は道具やシステムによって支えられる側面もありますが、原則は顔と顔を付き合わせるコミュニケーションが基本になると考えます。ツールやサービスの導入が目的に磨り替わらないようにお願いします。</p>	<p>情報化の推進は、住民生活の利便性の向上や行政運営の効率化・高度化を図ることを目的として、住民がICTの恩恵を享受できる地域社会の実現を目指しております。</p> <p>ご指摘いただいたツールやサービスの導入が目的に置き換わらないよう、情報化の目的と意義を十分達成できるICT施策を推進していきます。</p>
2	<p>・庁内情報システムについて</p> <p>非常に多岐にわたるかつ複雑なシステム構築に偏っている観があります。町内と庁内を結びつけるような取り組みは、佐賀県武雄市の事例も参考にご検討いただきたいと思います。Twitterを経由して役場職員が直接住民の声に対応するというような積極的かつ果敢な政策をすすめていただきたいと思います。</p>	<p>電子自治体の推進と共に、様々なシステムが庁内に整備されています。住民の皆様の情報を管理する重要なシステムである意識を常に維持しながら、今後とも厳重かつ慎重に運用管理を務めてまいります。</p> <p>先進事例にもあるとおり、SNSを利用した住民と行政の情報の発信・交流を促進している自治体も増え始めている状況です。これらのSNSの活用については、メリットと共にデメリットもあることから、継続して調査検討を行いSNS対応の有無を判断していきたいと考えております。</p>

<p>3</p>	<p>・自然環境のアピールについて</p> <p>南三陸町の豊かな自然は漁業だけでなく、農業、畜産、林業と多岐に渡ります。しかしながら漁業優先の観光集客やグルメ宣伝によって、その魅力の発信が半分以下となっていると思われます。これは非常に残念なことです。宝の持ち腐れと言えます。滞在型のグリーンツーリズム、ブルーツーリズムを支えられるような、農地基盤整備や旅客運送、廉価で清潔な宿泊場所の充実を願います。これが充実すると自動的に交流人口が増加すると思われます。「何もしない贅沢」が南三陸町で味わえるはずです。</p>	<p>本町は、海と山に囲まれた自然環境が豊かな地域で、震災以前から自然環境の維持や地域資源を活用した産業振興を促進してきました。</p> <p>復興へ向かうこれからは、町の魅力や多岐にわたる地場産業のPRや情報発信の強化を図り、交流人口の増加を目指すとともに、この町のすばらしい自然環境を活かした滞在型ツーリズムの推進や地域活性化に寄与するICT施策を推進していきます。</p>
<p>4</p>	<p>・目標2「自然と共生するまちづくり」について</p> <p>南三陸町にたくさん残る人工林の活用を通じた林業の再興をお願いします。原子力からの脱出は木材利用にかかっているといても過言ではありません。今こそエネルギー源を木材に求め、林業に新たな雇用と資源循環のまちづくりをリードする南三陸町であっていただきたいと願ってやみません。そのためにも地元材を活用した木造住宅の建設について助成や補助の拡充を期待します。住宅建設のように木材を多量に使用するようになると、端材を利用した仕事や技術、伝統技能等、スローライフについての発信が可能になります。復興をコンクリートと観光に頼るのではなく、町内の資源を活用した復興を目指して欲しいと思ひます。</p>	<p>林業の再興や発展も含め、自然と共生するまちづくりを目指しておりますので、町内のあらゆる地域資源を最大限に活用できる情報化の推進を図り、さらには雇用の促進にもつなげていきたいと考えております。</p>

<p>5</p>	<p>南三陸町のような何度も津波被害に遭遇している自治体にとって、情報化は急務であると思います。</p> <p>特に防災無線の他に、フォトパネルやタブレット端末を利用した災害情報や避難所情報や、他自治体の被害情報の概略を配信することにより、必要な行動や命を守る行動に繋がるとともに、自治体からの情報発信という信憑性の高い情報を入手できることにより、デマや流言を抑制する効果もあると考えられます。</p> <p>また、現在の復興途上においては、震災前・直後・復興宣言後の町の状況を Google と連携し、観光客・地域住民向けにストリートマップで公開・被災者の震災体験の動画配信（バーチャルな語り部）をするなど、町の移り変わりを映像面でバーチャルに体験できるようにすることも、今後の防災教育や観光施策にとって重要なことであると思います。</p> <p>しかし、情報化にとって最大の難点は、高齢者に対する情報化政策をどのように進めていくかであり、これは乗り越えなければならない壁であると言えます。</p> <p>高齢者の特徴として、特に過疎地では自身が理解できない事柄を拒絶する傾向にあり、これは情報化政策も例外ではありません。</p> <p>高齢者を置き去りにしない方法は、官民が手を取り合って解決すべき問題であり、情報化政策のターニングポイントであると思います。</p>	<p>緊急・災害情報の提供については、情報の正確性、即時性が求められておりますので、行政防災無線による情報発信のほか、メール配信や情報表示装置などへの情報発信の多様化を図っていきます。</p> <p>また、今後の防災教育や観光施策については、町の状況や移り変わり、震災体験などをバーチャル化（震災記録の情報化）することは、非常に重要であると考えており、「震災を後世に伝える」取り組みの一環として積極的に推進していきます。</p> <p>高齢者に対する情報化施策の展開については、ご指摘のとおり非常に難しい側面があります。携帯電話などが使えない・持っていない、機械が苦手など、状況は様々であると考えられます。そこで、高齢者にとって、日常的に利用する情報端末（テレビやラジオなど）との連携により、視覚的又は聴覚的に理解することができれば、違和感なくご利用いただけるものと考えております。</p> <p>今後、誰もがICTの恩恵を享受できるよう、情報化整備を推進していきたいと考えております。</p>
----------	---	---